SETSUNAN UNIVERSITY

バイオ・ライフサイエンス

キーワード：神経難病、臨床看護、質的研究

神経難病患者のQOL向上と看護の質向上を目指す研究

看護学部　看護学科　教授
森谷　利香　MORIYA Rika

研究の内容

主に神経難病患者に関する研究、および神経難病患者の看護実践に携わる看護師を対象とした研究を行っています。

神経難病患者、特に脱髄疾患である多発性硬化症・視神経脊髄炎患者を対象に、その症状に伴う体験を明らかにするために、質的研究を用いてきました。患者の体験を語られたことに基づいて抽象化し、さらに看護実践への示唆に繋げています。また、症状緩和に焦点を当てた補完代替療法として漸進的筋弛緩法を用いた準実験的研究も行ってきました。漸進的筋弛緩法は、筋肉の意図的な弛緩を訓練することに着目したリラクゼーション法の一つです。これによって、患者の主観的疲労感の低下、精神的QOLの上昇の傾向がありました（図1）。一方で身体的QOLは、3か月実施しても変化はありませんでしたが、気分尺度では、緊張、不安を示す値は低下し、活力が上昇する傾向にありました。

神経難病患者の看護実践に携わる看護師を対象とした研究では、質的研究を用いて看護師の実践知の蓄積不足や、感情管理が課題であると仮定しています。そして、リフレクションを取り入れた準実験的手法を用いて、実践知、感情体験をテーマに、神経難病看護の質の向上を目指しています。加えて、直近では看護師の実践知を明らかにする試みを行っています（図2）。

図1：NMO患者のPMR実施の結果

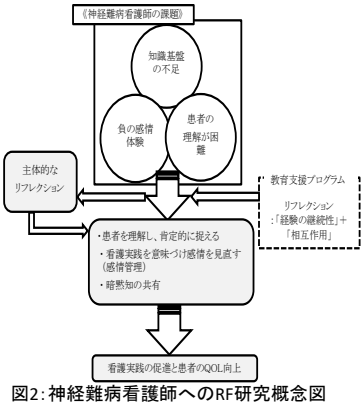

図2：神経難病看護師へのRF研究概念図

産学連携・社会連携へのアピールポイント

神経難病患者は根治治療がないために、苦悩を抱えながら長期間の療養を送ることになります。他方で、新たな治療やテクノロジーでその生活の質改善が見込むことができます。そのような患者理解や実践の視点について検討することができます。

また神経難病患者の看護に携わる看護師へのリフレクションの取り組みは、その実践の意味付けに有用であり、経験学習の視点から人材育成に寄与することができると考えています。

研究者総覧（森谷　利香）

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001180_ja.html

お問い合わせは摂南大学 研究支援・社会連携センターまで
TEL:072-800-1160　E-mail:SETSUNAN.Kenkyu.Shakai@josho.ac.jp